

## 表紙絵解題

### 近代中国語における「時」の表現に関するノート

内田慶市

#### 一 はじめに

今回の表紙絵は、「巨鐘新製」(『點石齋畫報』革 12、光緒 19=1893 年)と名付けられた、上海税関に造られた時報時計の紹介である。また、図 1 は、この紹介文中に出てくる競馬場の時計の絵で、『點石齋畫報』元 8 (光緒 23=1897 年)に「西童賽馬」と題されて収められているものである。

自鸣钟创始于西历一千三百七十九年，有德人名威克者，制以供法皇嘉利斯第五宫中所用。此为西国制钟之始。自是以来，造钟表者日多一日，灵心妙制，层出不穷。就其大者言之，如沪上法工部局，徐家汇、虹口天主堂，学堂、跑马厅等处，皆有大自鸣钟按时锤击，惜其声不甚宏亮，未能四境之内无不倾听也。江海关设在沪北英租界黄浦滩上，规模宏敞，轮奐聿新。近日新造钟塔一座，兀立中央，高耸霄汉，并向外洋购运大钟安设其上。此钟每开一次，可走八日。计大小钟共有五架，权之约重五千八百八十斤。报时者最大，其声甚洪，与工部局之警钟不相上下；报刻之小钟声如洋琴，悠扬可听，亦可远闻数里。且四面皆可望，夜间则燃点电气灯，照耀如昼。每锤击时，临风送响，如周景王之无射，噌吰铿锵。不独租界居人既便于浏览，即浦江十里，贾舶千帆，水面闻声，亦有入耳会心之妙，不诚大有益于斯民哉。

(時報時計は、1379 年に、ドイツ人のヴィック (ハインリッヒ・フォン・ヴィック、フランス名はアンリ・ド・ヴィク) によりフランス国王シャルル 5 世の宮中で用いるのに造られたものが最初である。これがヨーロッパの時計製造の始まりであり、それ以来、時計製造者は目を追って増え、精巧なものが次から次へと造られていった。その大きなものと言えば、たとえば、‘上海のフランス工部局、徐家匯と虹口の天主堂、学堂、競馬場などには、みな大きな時報時計があつて、時間に合わせて鐘が鳴る。ただ惜しむらくは、その音はそれほど大きくはなく、どこでも聞こえるというものではないことだ。江海关は上海の外灘に設けられ、その規模は広大で、建物も一新して立派なものになっているが、ここ

に最近時計台が新しく造られ、中央にそびえ立ち、さらに、外国から大きな時計を購入しその上に設置してある。この時計は1回の巻き上げで8日間動く。大小5つの鐘があり、その重さは5880斤である。時間を知らせる鐘が最も大きく、その音の大きさは工部局の警鐘といい勝負である。15分を告げる小さな鐘の音は、洋琴のようであり、はるか遠くまで聞こえ、また四方どこからでも眺めることができるし、夜には電灯をともし、昼のように明るく輝いている。鐘を打つ度ごとに、風に乗せて響きを送り、まさに周の景王の無射のごとくに、ボンボンと大きな音を響かせる。租界に住む人々だけのためにわるのではなく、黄浦江の十里にわたって、何千という商船も、水面でその音が聞いて心地よさに浸ることができる、まこと大いに人々に益あるというべきものではないか。)

角山 1984 によれば、こうした時報式機械時計は 1300 年前後にヨーロッパの修道院で最初に造られたとされる。また、機械時計のことを「クロック (clock)」というのは、ラテン語の「CLOCCA=鐘」からきているという。なお、『点石齋画報』では、1379 年にパリの宮殿にこの時計が造られたとあるが、角山 1984 では 1364 年とする。いずれにせよ、こうした機械時計が 15 世紀から 16 世紀にかけて、教会や市庁舎の塔に取り付けられ、また市民が集まる市場などの公共広場には必ず時計台 (塔) が設けられて、それまでの自然のリズムに従った時間=不定時法から、人工の時間の秩序=定時法による生活が営まれることになるわけである。

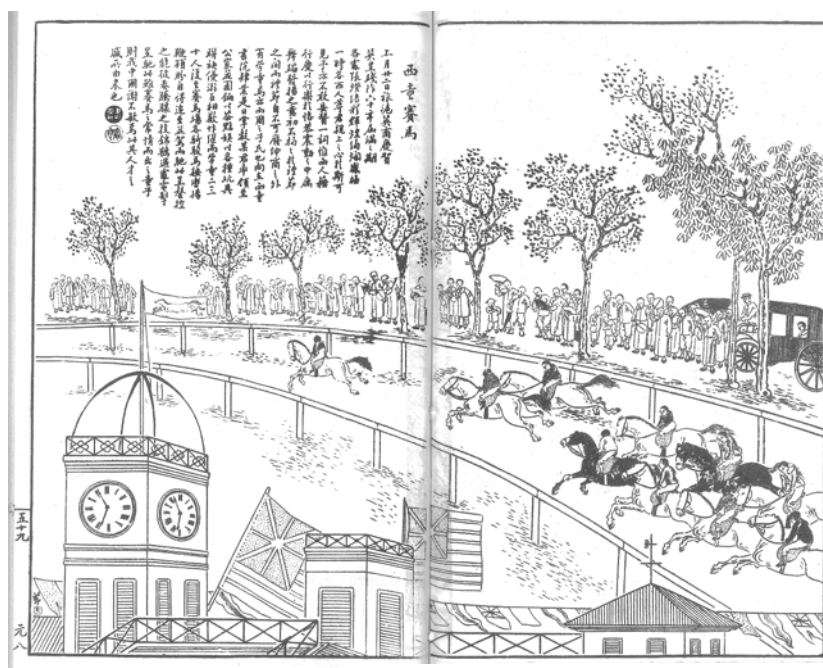


図 1

ヨーロッパで造られたこうした機械時計は、その後、16世紀後半にイエズス会宣教師により東アジアにも舶来された。中国について言えば、マッテオ・リッチ（1552-1610）が皇帝に献上した品物の中に、以下のように、天主像やマリア像、聖書などの他、この機械時計も含まれている。

万历二十八年。玛竇偕庞迪我等八人。齎贡物。诣燕京进……

謹以原携本国土物，所有天主图像一幅，天主母图像二幅，天主教一本，珍珠镶嵌十字架一座，报时自鸣钟二架，万国图志一册，西琴一张等物，敬献御前。此虽不足为珍，然自极西贡至，差觉异耳，且稍寓野人芹曝之私。（黄伯禄《正教奉褒》第1册，4-5，光绪10=1885年，上海慈母堂排印）

その後、康熙帝や乾隆帝がこの美しい音色や精巧な装置に魅せられて、ヨーロッパから多くの豪華な時計を輸入したことは有名な話であり、たとえば1763年10月16日付の神父ヴァレンティン・シャリエ（時計技師として北京に入る）の書簡によれば、「宮廷にはあらゆる種類の時計がいっぱいである。パリやロンドンの名工の手になる時計が4000点以上もあった」と言われている（角山1984，38p）。

## 二 東西の「時」の表し方：不定時法と定時法、12時制（辰刻）と24時制

さて、ヨーロッパの中世の産業革命において、機械時計の出現は、新しい時間概念の創出に極めて大きな役割を果たしたとされている。

古来より人は、「時」という目には見えず、手で触れることもできない流れゆくものを、太陽の出没あるいは昼と夜、影の長さといった自然のリズムによって、あたかも形あるもののように「切り取って」表してきた。いわゆる「不定時法」であるが、機械時計の出現により、季節や場所に関わらず何人にも平等な人工的な単位としての「時」が生まれることになった。この「定時法」の誕生によって、産業革命における等価等質の労働時間を単位とする商品生産、産業資本成立の基礎的な条件が確立したのである。「時は金なり」とは、こうした機械時計の定着を背景としたものである。

ところで、制度上、太陽暦に基づく「定時法」が採用されるのは、中国では1912年、日本では明治6（=1873）年のことである。それまでは、中国や日本では、機械時計が入ってから基本的には「不定時法」が中心であり、「定時法」はむしろ補助的な表現方法という、いわゆる2本立てで用いられていた。図2はそうした2本立て=中西合一の典型的な時計である。すなわち、24時間をまず大きな単位として「12辰刻」に分け、小さな単位として「96刻」に分ける。

大きな単位の「12辰刻」は、それぞれ前半と後半の二つに分けられ、前半の60分を「初」(Morrison 1816, Medhurst 1844 などでは「交」とする)、後半の60分を「正」と呼んだ。また、「刻」は15分で、初刻(一刻)、二刻、三刻と分けた。従って、「子初初刻」とは「23:00」、「子正初刻」は「24:00」、「午初二刻」とは「11:30」ということになる。

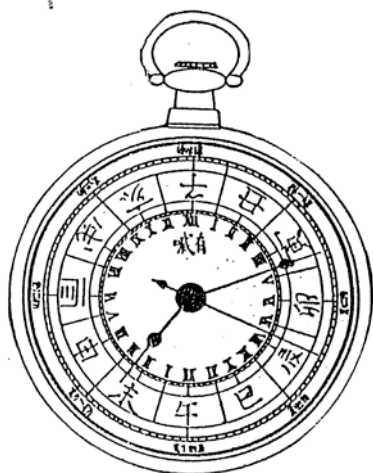


図2

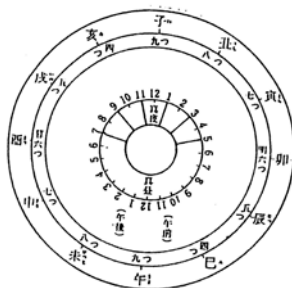


図3

なお、それぞれの時に合わせて鳴る鐘の数は、以下の表の通りである。つまり、「子初」では「9つ」、その1時間後には「1つ」、「暮れ六」は「酉初」であり、その1時間後には「2つ」鳴るといふ具合である

	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
初	9	8	7	6	5	4	9	8	7	6	5	4
正	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2

また、夜(19:00から05:00)も初更、二更、三更、四更、五更の5つに分けられていた。

こうした近代中国における「時の表現」の具体的な現れ方は、たとえば以下のようなものである。

《老乞大》(14-5世紀)

主人家、俺明日五更头早行(17)

今日は二十二、五更头正有月明。(18)

俺明日五更头早行。(19)

伴当毎、起来。鸡儿叫三遍、待明了也。(29)

你道将年月日生时来。

我是属牛儿的，今年四十也。七月十七日寅时生。(105)

《百姓官话》(17-8 世紀)

不幸于七月初七日酉时病故。

于本月初七日酉时病故。

远不远呢。也不算远。大约需要花半天的时间，有的约有一、两天的路程。

《正音撮要》(18-9 世紀)

五更天才睡觉，晚饭后才起来。(1-10b)

什么时候了

定更了，三更半夜的，鸡叫了

五更头儿，子初子正，丑初丑正

日子，子正以后为日子

夜子，子正以前为夜子 (2-6b-8a)

《和汉俗语呈诗等杂字》(長崎県立歴史博物館)

你出去看看。几 / 八点时候来了。

今日差不多有九点。刚刚打 / 钟了九点鼓 / 钟。

最後の《和汉俗语呈诗等杂字》の例は、現代語の“点钟”のように見えるが、これは江戸期の唐話資料であり、鐘（太鼓）の数を言っているものと考えられる。

以上は、伝統的な「不定時法」の表現であるが、12 時間制と 24 時間制の 2 本立てのケースもしばしば見られる。

《红楼梦》(1720 年代あたり)

“三更天了，该睡了。方才老太太打发嬷嬷来问，我答应睡了。”宝玉命取表来看时，果然针已指到子初二刻了，(19-222)

宝玉听了，回手向怀内掏出一个核桃大的金表来，瞧了一瞧，那针已指到戌末亥初之间，(45-556)

众人因问：“几更了？”人回：“二更以后了，钟打过十一下了。”宝玉犹不信，要过表来瞧了一瞧，已是子初一刻十分了，(63-809) (“一”诸本作“二”。脂本、或戚本作“初”。

说着，只听外间屋里上的自鸣钟“当当”的两声，因说道：“姑娘们睡罢，明儿再说笑罢。”(51-637)

至次日卯正二刻，便过来了。(14-153)

素日跟我的人，随身俱有钟表，不论大小事，都有一定的时刻，一横竖你们上房里也有时辰表：卯正二刻我来点卯；巳正吃早饭；凡有领牌回事，只在午初二刻；戌初烧过黄昏纸，我亲到各处查一遍，回来上夜的交明钥匙。（14—154）

刘姥姥只听见咯当咯当的响声，很似打罗筛面的一般，不免东瞧西望的，忽见堂屋中柱子上挂着一个匣子，底下又坠着一个秤砣似的，却不住的乱晃，刘姥姥心中想着：“这是什么东西？有煞用处呢？”正发呆时，陡听得“当”的一声，又若金钟铜磬一般，倒吓得不住的展眼儿。接着一连又是八九下，欲待问时，只见下丫头们一齐乱跑。（6—74）

张德彝《随使法国记》（三述奇—一个中国人的 1871 年巴黎公社目击记）（1871）

十四日癸酉，晴。

申正，又过被获叛勇一千四百人。近日巴里虽平，而昨夜有更夫被杀者六人。将军马克谋宏因而出示，每晚至十一点钟铺门皆闭，违者治罪。（171p）

择于十一月初七日礼拜二准一点钟，在贤敖瑞巷第四百七十七号粤石塔耶稣堂，小女芙兰似于归合众国西省葛尔根为妻，（254p）

《官话指南》（1882）

你昨儿去游湖回来早啊是晚哪？

回来有四更天了。 It was after midnight when we got back. (9)

原来昨儿夜里有大霜，怪不得我睡到五更天醒了觉着冷的很，可就嫌棉被窝太薄了。

Then there was a heavy frost last night! That accounts for my waking up about 4 in the morning, feeling very cold, and wishing my cotton coverlet was not so thin. (11)

夜深了，想这时候有三点种了。 It is late; I think it must be 3 o'clock by now.

我刚才听见自鸣钟当当的打了两下儿似的。

Just now I heard the clock go ding ding, it seemed to strike two.

那架钟怕不准吧，看看我那个表，这个表走到三点种了。

I'm afraid that clock is not right; I'll look at my watch. The watch makes it three. (11)

月里头有一天夜里头，有三更多天，我刚睡着。

One night towards the end of last month, some time after midnight, I had just gone to sleep. (93)

那么明早，是在何时启节呢。

Then at what time to-morrow shall you begin your journey?

大约就在巳初吧。

Probably about nine o'clock in the morning.

那么我明早晨正过来送行就是了。

In the case, at eight to-morrow I shall come over and see you off. (207)

咱们初五午初，在同庆堂会面就是了。

We shall meet at the T'ung Ch'ing T'ang at 11 o'clock on the 5<sup>th</sup>. (241)

ヨーロッパ人の資料における状況も示しておく。

Morrison 《Dialogues and detached sentences in the Chinese language》(1816)

今早四鼓 (four drum) 时便进朝里去修理自鸣钟。(127p)

往常午时初 (noon time) 回，今日事多，必竟来迟些，在未时 (one or two time) 来得。(127-128p)

明早五鼓 (five drum) 就要起身。(135p)

The word 正 is applied to the even numbers, as 正午, twelve o'clock in the day.

The word 交 is applied to make it extend backwards, thus 交午 is eleven o'clock. 正未 is two o'clock, 交未 one o'clock.

The word 刻, they use to denote a quarter of an hour. (244p)

Goncalves 《汉字文法》(1829)

什么时候。几下钟。看几下钟。差不多一下钟，正打了三刻。打了一下三刻。刚刚儿两下钟。还没(有)三下二刻。六下钟过了。刚打了七下一刻。大概是十下钟。慢慢要打十二下钟。我的表慢几分，不走了。(问答十二时辰)

你是几下钟起来的。我七下二刻起来了。(问答十五)

要到什么时候。到一下钟早起 (问答二十)

Goncalves 《洋汉合字汇》(1831)

晚上十一下一刻十二分二十秒 / 子刻一刻十二分二十秒

Medhurst 《The Chinese dialogues》(1844)

什么时候。午时才来。At noon. (13p)

朝辰三点起火，五点打花。(16p)

晚上六点钟人客来齐。(147p)

正子，交丑 (1 a.m.)，正丑 (2 a.m.)，交寅，正寅 · · · · 交子 (11 p.m.)

正卯一刻 (a quarter past 6 a.m.)

正卯二刻 (half past 6 a.m.)

正卯三刻 (three quarter past 6 a.m.) (235p)

Wade 《语言自述集》(1867)

明儿个几点钟见。明儿咱们申初见吧。(问答十章之九)

打过了四点几钟了。(续散语十八章之七)

申末酉初了，才是三点几半钟 (登瀛篇)

### 三 時点と時量

時の表現に関しては、「時点 (時刻)」と「時量 (時段)」の区別、あるいはそれらの表し方の違いが東西には見られるように思われる。もちろんそれは、「不定時法」と「定時法」の違い、さらには時計の普及とも関係する問題ではあるが、たとえば、次のような表現は不定時法の世界では現れにくいものである。

ケンペル『江戸参府旅行日記』

一里は (われわれが馬で行くか速く歩いて) 一時間かかるが、他の国々ではたった四十五分しかかからない。(77-78p)

われわれはここで一時間ほど足を止めてから再び道を進み、一時間半かかって浦上村に着いた。それから約30分行くと、・・・(79p)

川幅はこの辺では 15分で行けるほどの距離で・・・(150p)

不定時法ではせいぜい、次のような言い方があるだけであろう。

日中は朝の五つ太鼓から八つ太鼓まで三時の間、番衆は持ち場の曲輪から離れて一時ずつの休息をとるべし。(北条氏政)

甲斐田村-卯の時から未の時まで五つ時

片鉾村-辛酉の二つ時

田口村-戌の時から寅の時まで五つ時 (枚方の用水問題での水を引く時間の裁定)

またこのような「時量」をどう表すかは、その民族の文化、思惟方法と関わり合いがあるはずであり、つまりは、「何を持って時の流れを切り取るか」である。

中国語では次のような表現が見られる。

大虫去了一盞茶时，(水浒)



一盞茶时，不见出来。(水浒)

再略等半钟茶的工夫就是了(红楼梦)

约莫也有半碗茶时，(儿女)

隔了半盞茶时，(同上)

过了一顿饭时光，(铜墙铁壁)

过了一锅烟时光，(同上)

中国語では、もう一つ、面白い現象が見られる。それは「時点と時量が同じ」ように表現されるということである。

《续定招工章程条约》(1866)

一日之内工不过四时六刻(即外国九点钟二刻也)

张德彝《随使法国记》(1871)

是日蒙星使给王竹轩、张云波、刘辅臣诸位延一法文教习，姓博名丹，年近三旬，教以初学之法，每日教一点钟，馆谷五方。(189p)

即小事亦必于一二时前告之方可，否则推以戚友竖邀固请。(189p)

二十九日丁巳，早，大雨，巳正止。午后，见有匠人会由楼下经过。原各种匠人每日作十点种之工，今众约改作八点种之工，蒙官允准，定于是日聚众庆贺。(227p)

旁顺风颇大，船能于一点钟之时行四十五里。(232p)

Morrison 《Dialogues and detached sentences in the Chinese language》(1816)

各处水车皆去救火，后至三个时辰救息。(177p)

One she-shin is equal to two European hours.

后至两三个时辰将火救息。(182p)

Medhurst 《The Chinese dialogues》(1844)

我要食饭。弄饭未便。几时弄得便。再半点钟就便。(6p)

Wade 《语言自述集》(1867)

一点钟两刻，半点钟，一点半钟就是一点钟两刻，一下钟就是一点钟(散语四十章之九)

An hour and two quarters. A half-hour. An hour and a half is the same as an hour and two quarters.

Both the following expressions. I hsia chung and I tien chung, mean an hour. (Key: 2lp)

回头请先生念三点钟的书，

《上海洋泾浜北首租界章程》

第一天早十点钟起至午后三下钟，次日早十下钟至午后三下钟止。

无论何项车具，均于日落後一点钟至天明前一点钟止，在车上燃点明灯。

これについて、かつて尾崎 2007 では“三点钟”に関して次のように述べている。

「鐘が三つ鳴ったとは、起点から数えて三番目の3時という特定の時点を表していると同時に、それはそのまま、起点から数えて3時間という特定の時段をも表している。」(135p)

このことを暗示するのは、上に挙げた Morrison の例である。

各处水车皆去救火，后至三个时辰。 (177p)

后至两三个时辰将火救息。(182p)

これはもちろん「任意の起点から数えて3時間目に」鎮火したということを述べているが、中国語として“至三个时辰”つまり“到了三个小时”というのは「終点」を意識したものであり、むしろ「3時になってようやく鎮火した」という「時点」の表現になっていると考えられる。

いずれにせよ、両者は結局同じものということであるが、実は、中国人にとっての「時」、あるいは「時のはかり方」は、そもそもの初めから「長さ」＝「時量」であり、「時点」ではなかったと考える方が妥当であるかも知れない。そのことは、先の図2の時計が象徴的に示しているように思われる。ヨーロッパの時計では、線上に数字(時刻)が描かれるのに対し、中国の十二辰刻は「線と線の間」に描かれる。つまりは、「子の時」というのは、11時とか12時といった「点」ではなくあくまでも11時から13時までの「段」ということである。

#### 四 その他：「分」はいつから使われたか？

今回、中国語の時の表現について概観してきた際に、「分」の使われ方に奇妙な状況が見られることに気がついた。それは、以下のように、欧文資料では「Minute」の訳語として「分」がモリソンあたりから見えるのであるが、なぜか、中国人の手になる英漢辞典類に遅れて現れるのである。これも、今後の課題としておく。

Morrison (1822)

分、second 抄、六十抄為一分

Williams (1844)

一分

Medhurst (1846)

分、分秒 (minute and seconds)

Goncalves (1831)

一分

Hemling (1916)

一分钟, 一分时, 二分钟之久

邝其照 (1875)

一点钟有六十个尾利

字典汇集 (1897)

一点钟之六十分一

达辞 (1898)

一点钟有六十个面尼

华英贸易字典 (1901)

晚呢

商务华英字典 (1902)

棉尼 (一分时也), 一点钟有六十分

<参考文献>

角山栄『時計の社会史』中公新書, 1984

E. ブラットン著、梅田晴夫訳『時計文化史』東京書房社, 1974

尾崎實「近代中国における時間の表しかた」『尾崎實中国語学論集』好文出版, 2007

——「時点と時段—“～点钟”の用法から」同上書

『或問』第15号 2008年12月

## 目 次

## 論 文

馬禮遜譯『大英国人事略説』探究	李 曉	1
馬禮遜辞典中的新詞語	黄 河	13
第一本寧波方言英漢詞彙集 ——『英華仙尼華四雜字文』	郭 紅	21
中国における西洋解剖学の受容について ——解剖学用語の変遷から	松本秀士	29
論日本讀本小説『忠臣水滸傳』	趙	45
日本とかかわる19世紀中期以前の台湾近代医事の変遷 ——台湾大学医学部と国防医学院を中心に	王 敏東	55
日編北京口語教材《官話指南》的語言特点分析	吳 麗	65
日漢辞典の黎明期	沈 国威	75
国学扶輪社『文科大辞典』與清末本土經典的 “知識資源” 轉型	孫 青	85
『英華萃林韻府』の術語集をめぐって	宮田和子	97
中国近代新聞と日本新漢字語の導入 ——日本語記事「清國膠州灣」の中訳を例として	秦 春芳	109
清中期の袁枚『随園詩話』と市河寛齊編『随園詩鈔』	松 浦	125
試論隋唐以前对西域来華佛教僧侶的漢語教学	李 雪 涛	141
<b>資 料</b>		
New Publications in Western Languages	Joachim	159
表紙絵解題	内田慶市	171